



試験報告書

依頼者 有限会社 オーエルアイ



検体 ラップラクン防錆剤

表題 殺菌効果試験

2012年(平成24年)03月15日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

殺菌効果試験

1 依頼者

有限会社 オーエルアイ

2 検 体

ラップラクン防錆剤

3 試験目的

検体のカンピロバクターに対する殺菌効果を試験する。

4 試験概要

検体溶液にカンピロバクターの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し、1及び5分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)		
		開始時*1	1分後	5分後
カンピロバクター	検 体*2	8.9×10^6	<100	<100
	対 照	8.9×10^6	2.4×10^7	1.1×10^7

<100 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水

*1 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

*2 精製水 1 L に検体 5 g の割合で添加したもの

6 試験方法

1) 試験菌

Campylobacter jejuni subsp. *jejuni* ATCC 33560(カンピロバクター)

2) 菌数測定用培地及び培養条件

5 %馬脱纖維血液加Blood Agar Base No.2(OXOID), 平板塗抹培養法,
35 °C ± 1 °C, 5日間微好気培養

3) 試験菌液の調製

試験菌を5 %馬脱纖維血液加Blood Agar Base No.2で35 °C ± 1 °C, 2~3日間微好気培養した後, 生理食塩水に浮遊させ, 菌数が $10^8 \sim 10^9$ /mLとなるように調製し, 試験菌液とした。

4) 試験操作

検体溶液(精製水1 Lに対して検体5 gの割合で添加したもの)10 mLに試験菌液を0.1 mL接種し, 試験液とした。室温で保存し, 1及び5分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し, 試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお, 対照として, 精製水を用いて同様に試験し, 開始時についても生菌数を測定した。

以 上